

正覚寺沿革

一、創立と開基

当正覚寺は、もと幡豆郡吉良庄岡山郷にあり、岡山道場といわれていた。草創の年次は詳らかではない。

おそらく遠く親鸞聖人の弟子の誰かに教えを受けた篤信の信徒が岡山に住みつき、農耕の生活をしながら念仏のよろこびを村人と語り合っていていく中で、終いには道場建立へと発展したものであろう。室町時代の末期、戦国時代にうつり、栄華を極めていた足利氏が滅亡していくかという時代である。

当寺の開基は誓珍法師という人物であり、永享七年（一四三五）に岡山郷に生まれ、幼時より仏道への志深く、時の道場主の教を受け仏道を修めていたが、求道の志高く、文明十余年の頃道場を出て、遠く京都山科の本願寺蓮如上人を訪ね、仏法聴聞すること数年に及んだ。そして文明十六年（一四八四）六月二十六日付の

『阿弥陀如来絵像本尊』を拝受し三河へ帰国。その後、文亀二年（一五〇二）六十七歳の時、岡山にあった道場を春崎（現針崎）へ移し、一字を建立し、蓮如上人より受けた御影像を安置した。

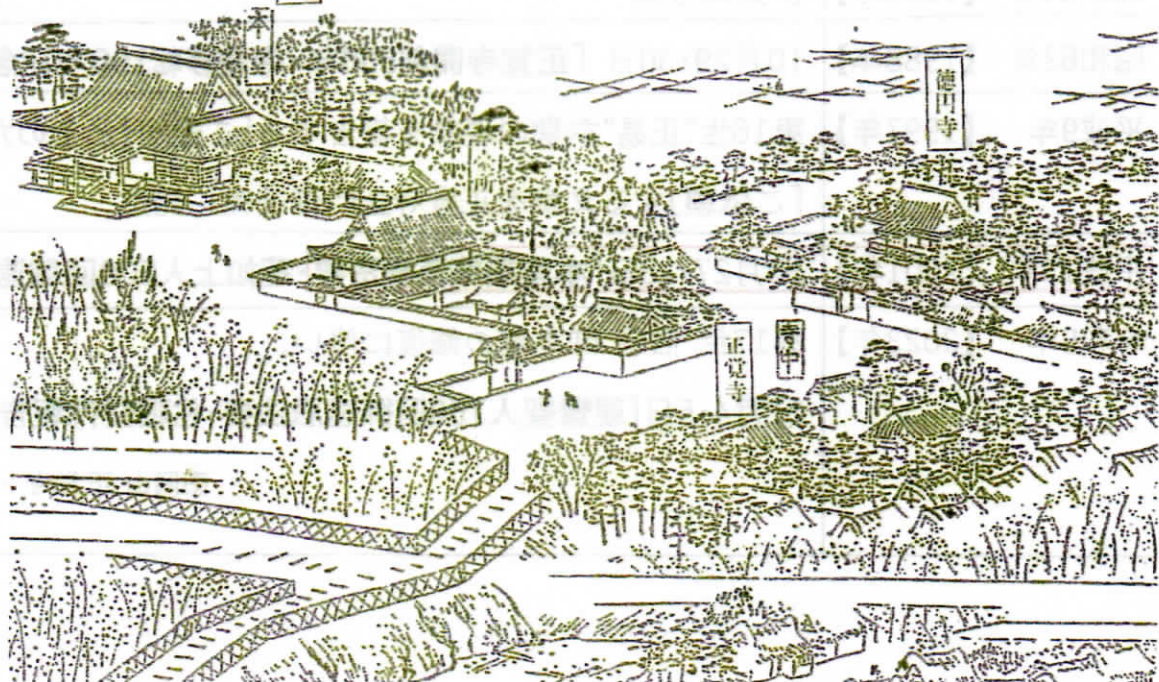
ここに正覚寺の基が開かれた。永正十一年（一五一四）九月十日、誓珍法師はその生涯を閉じられた。七十九歳であったといわれている。

二、寺地の移転

正覚寺十三世釋義竟は、春崎の寺地が高原にあり毎年夏秋頃、大雨や風による被害を受けることを憂うと同時に、柱村に寺がないことは、門徒教化のうえでの問題であると思い、明治十三年八月に移転請願書を県知事に上申し、同年十月に移転の許可を得るにいたった。

移転の許可を得ると同時に着工へうつり、諸建物の基礎工事などには

柱村の人々が多く参加し、大変な賑わいを見せた。





書を県知事に上申し、同年十月に移転の許可を得るにいたった。移転の許可を得ると同時に着工へうつり、諸建物の基礎工事などには柱村の人々が多く参加し、大変な賑わいをみせたという。

そして明治十六年（一八八三）十二月、本堂移築の大業が成し遂げられたのである。

三、本堂の新築

正覚寺第十六世住職釋正易は、明治十六年（一八八三）の本堂移築後、幾度かの火災被害の後、

江戸時代末期（鬼瓦の刻印には天保5年（一八三四）建立されたとされる本堂が、二度にわたる地震や伊勢湾台風などの影響によって被害を受ける度に補修を加え、現状を保っていた状況を受け、

本堂の状態を調査した結果、「あと十年は保証するが、その以降は保証ができない」

との専門家から意見を告げられたという。その助言を受けて本堂新築の意を決し、

平成九年（一九九七）に正覚寺全門信徒に本堂の現状を詳しく記した文章と共に本堂新築のため

の募財を呼びかける文章を発送した。長引く不況の中にあるにも関わらず、募財の受付が開始されると、

多くの門信徒の方々が献金の声をあげてくださり、最終的には、目標としていた予算以上の募財が

納められたのでありました。と同時に進められていた本堂新築工事も順調に進み、平成十三年（二〇〇二）に

「蓮如上人五〇〇回御遠忌法要」と兼修する形で、「本堂新築落慶法要」が盛大に厳修されたのであります。

寺院、道場といわれる場所は、このような門信徒、地域の方々の「前の世代が守ってこられた念仏道場（仏法聴聞の場）を、な」としても、次の世代に残していきたい」という願いが受け継がれ、現在に残っているということを私達は忘れてはならない。その思いを受けた私どもはそれをまた次の世代に残していくという大切な役割（責任）をいただいているのです。

さき う もの のち みちび のち う もの ことわ

前に生まれん者は後を導け、後に生まれん者は前を訪え。『教行信証』

南岡山 正覚寺 年表

永享6年 【1434年】	開基”誓珍法師”幡豆郡吉良岡山郷(西尾市)にて誕生。 岡山道場(現在の成道山 正覚寺)第8世”教賢法師”の元で仏道を修める。 ※ 教賢法師… 蓮如上人の直弟子。
文明10余年(不詳)	京都・山科本願寺の蓮如上人の元を訪ね、仏法聴聞。
文明16年 【1484年】	蓮如上人より「阿弥陀如来絵像本尊」を拝受され三河へ帰国。 ※ 裏書きには6月26日とある。
文亀2年 【1502年】	岡山道場を春崎(針崎)に移転し、一字を建立。 蓮如上人より拝受した御本尊を安置し、正覚寺の基を築く。 [山号] 南岡山 [寺号] 正覚寺
永正11年 【1514年】	9月10日、開基誓珍 79歳にて還浄。
明治12年 【1879年】	第13世”義寛”春崎の寺地を柱村(現在の位置)に移転することを発願。
明治13年 【1880年】	8月13日に移転請願書を県知事に提出。 同年10月17日付で移転の許可が下りる。
明治16年 【1883年】	12月、春崎から柱への寺地移転が成し遂げられる。
昭和19年 【1944年】	12月7日 東南海地震 (震度7)
昭和20年 【1945年】	1月13日 三河地震 (震度6)
昭和34年 【1959年】	伊勢湾台風
昭和63年 【1988年】	10月29・30日「正覚寺開創500年・寺地移転100年記念法要」が勤まる。
平成9年 【1997年】	第16世”正易”本堂の現状を報告する「ご通知」とそのための募財を 「ご依頼」する文章を正覚寺全門信徒宛に発送。
平成13年 【2001年】	10月27・28日「本堂新築落慶法要・蓮如上人500回御遠忌法要」が勤まる。
令和5年 【2023年】	第17世”信暁”御本尊の修復に伴い、 11月4・5日「親鸞聖人750回御遠忌法要・住職交代報告法要」を勤める。 南岡山 正覚寺十八世 釋正滉

【旧本堂の鬼瓦】



天保五年(八四年)建立本堂鬼瓦
平成十一年(二〇〇〇年)本堂新築記念

【記念碑 本文】

正覚寺尚在當國岡山郷不詳草創之年文明十七年有僧釋珍者僉寺基干本郡春崎村爾來四百餘年傳統不絕而其地介在溪壑佛閣屹峙嶺東夏秋之交東南之風激發則堂宇毀傷者數歷世憂之欲易居而不果也第十三世住持釋義竟師奮起唱移築之議門徒踴躍彌久不決師百方勸誘至誠動人遂得移下今地事在明治十六年十二月惟地仍寒陋人竊借之後宮設東海鐵道近開驛站草蕪變成殿廡之區布教傳道之便日加可謂師卓見能啓嘉運者矣予少時及見師亦粗聞其苦心頃者現住義空未謁日先人之業係寺之興廢而門徒之勞闕事之成敗豈忍使其蹟之与名經年而漸湮滅乎願君記之且日先人以文政六年四月生於濃州大垣及長從普門律師而學後入本法院講師之門元治元年十一月始輩當寺專心教導四隣靡不蒙化遂克成就矣世之願事明治二十七年十月十八日獲病而逝享年七十有二門徒某某等名如次舉皆忠篤勤直之上竭力佐功者乃錄其言承之以銘銘曰

鳳来山高 何逮君功 矢矧川長 難比得風
片言不竭 占語可反 佛閣基固 法水流遠

大正十四年三月

大僧部講師 上杉文秀撰文
原田正雄題并書

功勞者姓名

檀家惣代

本田伴吉

野本徳左衛門

長嶋常八

野本與五郎

柱村小海惣代

畔柳男吉

野本佐七郎

小出仁庵衛門

野本清四郎

小椋東九郎

世話方

小柳惣助

市川力蔵

小玉直蔵

橋本庄九郎

佐野梅吉

橋本清七

新海藏右衛門

河野盛次郎

柴田甚吉

大正十四年四月建立
岡山十四世 石川義室

柱村中

檀家小

【正覚寺寺地移転 記念碑】



【正覚寺 歴代】

- ①釋誓珍 — ②釋祐誓 — ③釋祐傳 — ④釋祐保 — ⑤釋祐惠
- ⑥釋圓祐 — ⑦釋惠雲 — ⑧釋祐元 — ⑨釋祐昌 — ⑩釋祐覚
- ⑪釋祐景 — ⑫釋祐照 — ⑬蔡華院釋義竟 — ⑭好華院釋義空
- ⑮空華院釋義亮 — ⑯雜華院釋正易 — ⑰釋信暁 — ⑱釋正混